緑の地球新聞

第155号　2022年1月5日発行：公益財団法人　緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている
私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03（3297）5505　Fax 03（3297）5507
URL: https://green-earth-japan.net/
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座　00110-9-161182　　定価　¥150

尾瀬の現状と取り巻く課題（第2回）

前号（第1回）では、①緑の地球防衛基金と「尾瀬」の係わり、②尾瀬国立公園の特長として、全地域が特別地域として保護される特別な国立公園であることや、生き物の宝庫であることなどを紹介しました。しかし、観光客による自然破壊をはじめ、国立公園尾瀬の環境は危機的状況にあります。

本号では、尾瀬が抱える多くの悩みや課題として、①少雪と温暖化、②シカの食害、③外来植物の繁茂、④ゴミの不法投棄など昭和の負の遺産問題、⑤国立公園満喫プロジェクトの問題などについて、紹介します。

尾瀬が抱える多くの課題

①少雪と温暖化

尾瀬には寒冷な気候を好む北方由来の植物や日本の固有種、高山植物が多く生息しています。つまり冷温かつ多雪の条件が欠けてしまうと、生息することが極めてむつかしくなります。しかし、昨今、少雪と温暖化が進行しています。

先ず降雪量ですが、「特別豪雪地帯」に指定される檜枝岐（ひのえまた）村の降雪量は、過去30年間の平均で約1，200㎝であり、1990年代後半には2，000㎝を超えることもありました。しかし、最近の降雪量は極度に少なく、2016年は696㎝、2020年は826㎝、2021年は993㎝に止まっています。

また、気温は冬期、夏期とも上昇傾向です。尾瀬の夏日（日最高気温25℃以上）及び真夏日（日最高気温30℃以上）の発生日数は、右肩上がりです。尾瀬では数年前まで「真夏日」の記録はほとんどありませんでしたが、2016年以降急速に増加しています。

地球温暖化は、一つ一つの気象変動を激しくし、風、雪、雨の降り方まで変え、それに伴い植生、生物分布、生態系にも大きな変化をもたらします。「少雪と温暖化」を引き続き注視していく必要があります。

檜枝岐村の過去30年間の平均降雪量　年1,200㎝

直近6年間の推移

年	降雪量
2016年	696
2017年	1387
2018年	906
2019年	1098
2020年	826
2021年	993

気象庁HP【単位/㎝】

雪のない大江湿原（2016年5月5日撮影）。例年この時期、大江湿原の残雪は1m以上ありますが、2016年はゼロでした。雪解けが早いと高山植物への影響に加えて、シカの移動開始が早まるので、残雪状況を注視していく必要があります

＜2020年尾瀬－主な気象記録＞
（観測地点 / 山の鼻 / 標高 1,400m）

- 最高気温 -33.2℃（8月20日）
  （第1位タイ記録。2018年7月19日に観測した33.2℃に並ぶ、観測開始以降の最高気温を示現）
- 8月夏日日数 - 過去最高記録の28日
  （2020年8月の気温は高温状態が続き、夏日日数が28日に達する）
- 2020年夏日日数 - 過去第2位の46日
  （2018年の夏日52日に次ぐ46日を示現）

②シカの食害

1980年代に入ると、全国的にニホンジカの爆発的増加による農業、林業、牧畜の被害が顕著に現れはじめました。80年代後半にはシカ害は勢いを増し、亜高山帯や湿原まで入り込みが始まりました。尾瀬においても1990年代前半よりシカ

の生息が確認され、生態系への不可逆的な影響が懸念されています。

〈シカはどこから?〉

尾瀬国立公園では、2008年よりシカの行動を把握するため、GPS首輪によるシカの追跡調査を実施してきました。GPS追跡のデータ解析により、日光（足尾方面、男体山方面）と尾瀬を季節ごとに行き来することが解明されてきています。また、個体群が季節移動の際に集中的に「通過する箇所」も、追跡データより分かってきました。

GPS首輪を装着

シカは毎年3～5月中旬にかけて、日光方面より30㎞離れた尾瀬に群れでやってきます。また10月中旬から12月中旬には、尾瀬を出発して日光方面に戻る習性があります。季節移動経路は国道401号線、丸沼周辺であることが分かってきたので、近年、シカの捕獲とともに、要所にシカ柵の設置を行い、尾瀬のシカの影響排除に取り組んでいます。

尾瀬ヶ原ヌタバ（シカが体に付いたダニを落とすため、泥あびした箇所）。
はがされた泥炭層は、回復するまでに20年以上かかります

③外来植物の繁茂

「尾瀬の外来植物広がる　第4次学術調査で在来種絶滅の恐れ」。この見出しは、2018年1月11日付全国紙の表題です。学術調査団の報告会において研究者から、尾瀬の特別保護区内に、ヨーロッパ原産の多年草「コテングクワガタ」などの外来種植物が広がっていることが発表されました。

コテングクワガタは全ての山小屋周辺で生育が確認され、その株数は在来種であるテングクワガタの10倍以上あり、一部では二つの種が交雑していたそうです。「山小屋への物資や工事用資材搬送の際に運び込まれた可能性が高い」と指摘され、学術調査団から「外来種と混じり合うことで、在来の純粋種が絶滅する恐れがある」との驚きの報告でした。

ミズバショウの湿原を埋めるオランダガラシ（大きな葉はミズバショウ）

「尾瀬を守る会」の加盟団体である尾瀬自然保護ネットワークの毎年の調査で確認された外来種は、オランダガラシ（アブラナ科／欧州産）ほか30種を超え、また研究者より至仏山の山頂でセイヨウタンポポの報告まであります。

尾瀬の植物相の文献には、外来種侵入に対し対応策を急ぐよう、たびたび警告がなされていますが、今ではもう手の施しようがないほど、尾瀬の湿原奥深くまで侵入を許し、拡散かつ群生化している有様です。

④昭和の「負の遺産」

不法投棄現場（2020/9/10 撮影）

尾瀬沼ではハイカーによるゴミの投げ捨て、山小屋による台所や風呂の汚水の垂れ流しが続きました。併せて山小屋は湿原に穴を掘って糞尿のみならず、ビン、缶、ヤカン、乾電池、トタン、ストーブなどありとあらゆる物を埋めていました。山小屋に加えて環境省のレンジャーらも共同で不法投棄をしていた事実は、長蔵小屋裁判の中で判明しています。

檜枝岐村沼尻地区では、不法投棄した廃棄物が地層状となり、地層の高さは1m以上に達していました。不法投棄は山小屋が立地する尾瀬沼、沼尻、見晴、温泉、山の鼻など各所で見つかり、2007年よりボランティアの手を借りながら撤去作業が始まりました。

しかし檜枝岐村沼尻地区では、口先では「完全撤去」と言いつつも、撤去作業は実質2007年のみでした。環境省は、これ以上の撤去作業は植生に多大な影響を与えると理屈

不法投棄物の撤去作業に携わるボランティアの皆さんと搬出される大量のゴミ（2007/6/27撮影）

を付けて撤去作業自体を止めてしまいました。

尾瀬の自然は良く守られているという人も多いですが、一歩裏に回れば特別保護地区という国宝級の箇所でさえ、このありさまです。ただうまく人目に付かぬよう隠しているだけです。

⑤新たな難問―国立公園管理政策

また新たな難問も発生しています。これは「国立公園満喫プロジェクト」と称される国立公園管理政策です。環境省が数値目標として、国立公園に1，000万人の外国人観光客誘致のため、国立公園内の特別地域に、分譲型ホテル建設を認めるというものです。対象は全国の国立公園です。

日本政府は2015年11月に、多くの外国人の訪日を期待し観光立国を目指すための「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を設置しました。この「観光ビジョン構想」に基づき、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」は動き出しました。「観光ビジョン構想」は、2020年までに訪日外国人4，000万人（訪日外国人消費金額8兆円）、2030年までに同6，000万人（消費金額15兆円）との観光先進国を目指すものでした。

環境省は、「国立公園満喫プロジェクト」を実行するために、まず国内34国立公園の中から8公園を選定し、その公園に対し「自然環境整備交付金」などの補助金を支出しながら、外国人誘致の取り組みを集中的に実施してきました。「国立公園満喫プロジェクト」の最終的な方針は、8国立公園のみではなく「全国展開」を図り、加えて自然公園法等の制度の見直しを謳っています。

環境省は2019年9月、全国の国立公園の特別地域に対して、分譲型ホテル及び企業保養所の設置ができるように改正省令を発出しました。目的は「国立公園満喫プロジェクト」を推進し、実現化するため、つまり1，000万人外国人誘致、リゾートホテル建設のためです。既に尾瀬の山小屋の1つは、この「国立公園満喫プロジェクト」の企業スポンサーに名を連ねています。

また、実効性を高めるために国立公園内のツアーの企画、運営やリゾートホテル誘致等のために、民間（リゾートホテル業界や地元のガイドなど）から正規に環境省職員（利用企画官）として約50名を採用し、各地方環境事務所に配属も行いました。

危惧していたことが起こり始めています。檜枝岐村から申請されていた国有地にある『針葉樹林伐採を、環境省が2021年10月に認可した』との情報が入りました。国宝級の保護地区にある針葉樹林の伐採を環境省が認可する理由は、沼山峠休憩所からの尾瀬沼の眺望をより良くするためのようです。尾瀬の沼山峠周辺は、奥会津森林生態系保護地区であり、緑の回廊という尾瀬の生態系にとって極めて大切な森林です。また、ここは水源涵養保安林にも指定され、国民の大事な水源として守られてきました。

一般市民や有識者から、「尾瀬の自然を守ろう」との声があがり始めて50年以上の月日が流れました。貴重な自然を残そうという機運が、国はじめ市民にも多少なりとも醸成されてきたかと思っていました。残念ながら国立公園特別地域に対して、時計の針を逆回転するような政策が打ち出されつつあります。

また、本稿で見てきた尾瀬が抱える様々な問題も、容易には解決されません。

「尾瀬を守る会」は、自然保護の観点から、今後とも保護に資する調査や研究を続けていく考えです。

新年のご挨拶

公益財団法人　緑の地球防衛基金
理事長　大石　正光

新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、世界中に蔓延している新型コロナは、ワクチンの開発により感染がおさえられてきましたが、それでも感染者は世界中で2億5千万人を超えてしまいました。さらに、地球温暖化が世界の気候を激的に変化させて、地球全体が無視できない被害が発生してきました。人間の欲望で起きているこれらの現象に、30年にわたって取り組んできた国連環境会議「COP26」がイギリス・グラスゴーで開催されました。「脱炭素社会」への目標は、自動車のEV化や石炭火力発電の禁止を目指しましたが、緩やかな合意で終わってしまいました。

北極・南極の氷河が溶け出して、世界の海水面の上昇が確実に迫ってきました。世界の異常気象は、豊かな国も貧しい国も逃れることのできない現実です。さらに追い打ちをかけている新型コロナの感染と、次から次へと難問が現われてきます。個々人の欲望は小さなものですが、世界中の人間の欲望が合わされると膨大な量になり、この小さな地球では呑み込めません。

大切な地球を守っている大気圏を破壊しないようにしなければなりません。グレタ・トゥーンベリさんたち若者の努力が実るように、我らも行動すべき時なのではないでしょうか。

皆様にとって、本年も良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

2022年度「地球にやさしいカード」の助成14団体決まる

当基金は、SMBCファイナンスサービス株式会社の協力を得て、様々な環境保護団体に資金助成を行っています。具体的には、同社発行の「地球にやさしいカード」の利用額の0・5%相当の寄付金が当基金に贈られ、それを財源として毎年度環境保護団体に助成金を交付しています。

2022年度の助成対象団体の選定については、例年どおり8～9月の2か月間公募を行いました。応募があった18団体を対象として、11月の審議委員会、12月の理事会において慎重な審査を行い、次の14団体の事業に助成することが決定しました。

①認定NPO法人FoE Japan（日本の地球温暖化対策強化・エネルギー政策転換のための提言・普及啓発活動）

②NPO法人熱帯森林保護団体（ブラジル・カポトジャリーナ先住民保護区の消火・防火を目的とする「消防団事業」）

③NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク（尾瀬国立公園における①自然環境教育事業、②尾瀬の自然保護に関する調査研究、③自然環境保護に関する普及啓発事業）

④NPO法人立山自然保護ネットワーク（立山黒部アルペンルート沿線の外来植物除去事業及び啓発活動）

⑤NPO法人夏花（沖縄県石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動）

⑥認定NPO法人ヒマラヤ保全協会（ネパール中部ダウラギリ地方における果樹栽培の持続型アグロフォレストリーの展開）

⑦NPO法人サンクチュアリエヌピーオー（遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護及び調査活動）

⑧NPO法人桶ケ谷沼を考える会（静岡県磐田市の桶ケ谷沼におけるトンボの種の保全と自然環境保護活動）

⑨上総自然学校（千葉県袖ケ浦市におけるトンボの保護区の保全、里山再生）

⑩認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金（アフリカゾウ密猟防止のための、国内象牙市場閉鎖に向けた活動及び政策提言）

⑪真庭遺産研究会（岡山県真庭市を拠点とした、真庭清流自然学校による日本最大級のオオサンショウウオの生息地での環境保全活動）

⑫虹別コロカムイの会（北海道標茶町等におけるシマフクロウ繁殖と河畔林造成）

⑬熱帯林行動ネットワーク（インドネシアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動）

⑭NPO法人NPOクワガタ探検隊（大都市大阪の里山に舞え！未来の森の守り人）

たくさんの使用済み切手などありがとうございました

使用済み切手等売上表
（9月16日～12月15日）

未使用テレホンカード	0 円
未使用／使用済み切手	195,807 円
未使用／書き損じハガキ	17,356 円
外国コイン＆紙幣	360 円
合　　計	213,523 円

使用済み切手等協力者
（9月16日～12月15日敬称略）

市川浩一、市川元子、榎本邦彦、追立隆男、岡本純子、沖津淑子、佐藤和子、武田庄次、富沢千代、中泉亜紀、中野寿人、長谷川公子、林央、松本幸子、山口元子、匿名

同法人・団体協力者
（9月16日～12月15日敬称略）

㈳青森県社会福祉協議会、㈱アップワード、安藤産業㈱、㈱エム・シー・スクエア、共和食品㈱、光陽精機㈱つくば工場、㈱小森コーポレーション、三洋テクノマリン㈱、シーキューブ㈱、㈱シマセイ、清水建設㈱安全環境本部、清水建設㈱営業総本部、大成建設㈱横浜支店、ダイジク㈱、「小さな親切」運動愛媛県本部、「小さな親切」運動本部、デロイトトーマツグループ、東京少年友の会、東陽商事㈱仙台支店、豊島岡女子学園、戸田建設㈱、中津沖代ライオンズクラブ、日本郵便㈱市川大洲郵便局、日本郵便㈱市川本北方郵便局、（一財）日本品質保証機構、ネッカリッチ㈱、㈱富士通パーソナルズ、前澤給装工業㈱、㈱松村組、マルハニチロ㈱、三越伊勢丹グループ労働組合、㈱ミライトテクノロジーズ緑の会、㈲山内道路、ヤマモト木材㈲、郵船商事㈱、㈳湯沢町社会福祉協議会、ユニオンツール㈱、和興フィルタテクノロジー㈱

寄付協力者
（9月16日～12月15日敬称略）

飯塚友康、石本信二、SMBCファイナンスサービス㈱、榎本邦彦、大渕清孝、田中和子、寺山正義、ボランティアベンダー協会、森口修、渡邉公伸

事務局からのお願い

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。

当基金では、皆さまからお送りいただいた「未使用／使用済み切手」「未使用／書き損じハガキ」「外国コイン＆紙幣」の売上金を植林活動等に役立てています。

この時期、余った年賀状、書き損じの年賀状がありましたら、ご協力の程お願いいたします。